

北八代自治会集会所における温熱環境調査

安枝ゼミプロジェクト
(安枝英俊)

1. はじめに

兵庫県立大の姫路環境人間キャンパスに隣接する北八代自治会集会所は、安枝研究室において基本計画をし、県内の設計事務所の協力を得て、2016年に竣工した。本稿では、2020年度に集会所において実施した内容について報告する。

2. 温熱環境調査

北八代自治会集会所は、集会室を半屋外空間が取り巻く空間構成になっている。内部空間である集会室と外部空間をつなぐこの半屋外空間は、地域住民の日常の居場所となることを目的として計画したものあり、これまで、半屋外空間の活用方法を検討するワークショップや、子育て世帯を対象とした居場所づくりワークショップを実施した。

また、この集会所には、冷暖房負荷を軽減することを目的として着脱可能な天井や内窓建具を設置している。これらは、集会所の竣工後に、居住者とのワークショップを通じて開発・製作をした。

2020年度は、いわゆる交流促進に関する事業ができなかった。しかし、長年の懸案事項であった着脱可能な天井システムの効果について、環境工学を専門とする環境人間学部の土川忠浩教授の全面的な協力により、夏期と冬期に温熱環境実験を実施した。実験は、①集会所の暑さ・寒さの度合い、②ポリカーボネート簡易天井の断熱効果を測定することを目的として実施した。

3. コロナ禍での集会所の活用について

2020年度はコロナ禍のため、これまで活発に実施されていた自治会行事が中止となった。しかし、高齢者向けの健康体操教室などは定期的で開催されていることがわかった。集会所は、南側と西側の壁面2面が全面開口、南側と北側の壁面2面の上部にも開口があるため、それらを開放すれば、ほぼ外部と同じ状況になる。

自治会会長に伺ったところ、換気が十分になされていることから、安心して訪問できる、あるいは、家族からも送り出してもらえるとという高齢者が一定数存在することが明らかとなった。コロナ禍を想定して設計した訳ではなかったが、開口を開け放せば、ほぼ外部と同じ状況になる空間構成の意義を確認することができた。

また、環境人間学演習Ⅱの講義においても14名の学生とともに集会所を訪問し、コロナ禍にお

いて自治会長が、いかに居住者の交流促進に苦悩をしているのかについてレクチャーを受けた上で、その問題解決につながりうる、活用方法について学生がプレゼンテーションを実施した。

コロナ禍において、現場が交流のあり方について苦悩していることを学生らに伝えることは非常に重要である。教員・学生はじめ、学内の立場からすると、コロナ禍で自らの活動が制約されていると考えがちであるが、コロナ禍であるからこそ、地域が何に苦悩しているのかに気づき、その問題解決に資する地域連携を、教育・課外活動を通じて実践することが求められている。地域連携は、自らの関心事だけで推進してはいけないことを再認識することのできた2020年度であった。



図1：北八代集会所外観



図2：測定装置の設置状況



図3：集会所内部